

令和7年度 第1回練馬区特別支援教育推進委員会 会議要約

開催日時：令和8年3月5日(木)
午後1時半から2時半
会 場：練馬区役所本庁舎19階
1906 会議室

開 会

1 報告

- (1) 特別支援教育実施方針の進捗について
- (2) 令和7年度就学相談結果および就学先の早期提案に向けた取組について

事務局から資料3-1から3-4の資料について説明

【委員からの意見】

●相談支援強化として就学前相談を試行実施したが、対象は幼稚園に在籍している園児ではなく、幼稚園に入る前の未就園児が対象。5歳児健診も開始するなか、何かあった時のその先の受入がまだまだ準備されていないと感じる。妊娠期から障害に対する不安から検査する親も少なくない。親の不安や心配ごとのケアできる支援が必要と感じる。

(事務局から) 今回試行で実施した就学前相談は、実施方針を策定中で保護者アンケートにあった、相談先が探し出せない方にも相談しやすい環境を提供している。支援しきれていない層に手を差し伸べたと考えている。

●幼稚園選びは保護者にとっても大きなテーマ。個々の幼稚園によって考え方や方針が違う。入園後適用できずに転園する家庭もいる。区立幼稚園はインクルーシブの理解が進んでいると就学前相談に参加して感じた。幼稚園選びを支援する事業にもなっていると思う。園の中で問題を解決するのではなく、地域のネットワークとして情報や理解が進むといいと思う。

●就学事務の一部委託とあるが、具体的にはどのような状況か教えてほしい。

(事務局から) 就学相談の一環で発達検査を実施している。増加傾向にある就学相談を踏まえ、十分に発達検査を実施できるようにするため、一部検査を外部に委託予定。(約150件を想定)

事務局から資料4について説明

【委員からの意見】

- 資料３－２に記載のある特別支援教室在籍者数と資料４の特別支援教室在籍者数に差があるのはなぜか？
(事務局) 資料３－２は、現在特別支援教室を利用している児童・生徒のうち、特別支援教室での支援のみでは課題の改善が困難と考えられる者の数を示したものである。一方、資料４は、令和７年度就学相談において特別支援教室を提案した者の数を示したものであり、対象となる集団が異なる。そのため、両資料の数値には差が生じている。
- 資料３－１ 支援強化について、支援員の中には知識のない方も多い。支援員の増員はありがたいが、障害者理解をお願いしたい。
(事務局から) 一定程度の研修は行っているが専門的な研修については、今後検討していく。
(委員長から) 保護者の方への理解を深めていくことが大切。区でも、重層的支援を行っている。世帯全体の支援は、教育現場だけではない。医療、福祉サービスなど包括的に行っていくことが大切。そのためには、教育福祉課の新設は、先進的なものだと考える。
- 就学相談を受ける頃の保護者は、まだ将来に対する不安も大きいと思う。練馬区には特別支援学校もある。特別支援学校で行っている「マグカフェ」や区立中学校で行っている八校合同文化発表会など、障害を持った子供たちの先の姿を想像しやすい事業がある。区内の事業の中で保護者に安心感を与えられる支援があるといいのではないか。
(委員長から) どう社会とつながっていくかについては、重要。広い面でみても、教育福祉課の役割は大きいと思う。